



令和2年 12月
第191号

かけはし

ケアハウスあじさい園

URL: <http://www.ajisaien.or.jp/>

「千の風になって」 〈後編〉

日本語訳・作曲をされた新井満氏は、英語原詩「1000の風」と数年かけて向き合い以下のような物語としてとらえ、「千の風になって」がうまれました。

昔々、ネイティブアメリカンの集落に、一人の少年と一人の少女がいた。少年はウパン(雪)少女はレイラ(風)、弓と馬が名人のウパンと、うたと踊りの名手のレイラは、幼なじみ、やがて二人は恋をして結婚。レイラはその頃から健康を外し、かろうじて赤んぼうを出産した。レイラの健康はさらに悪化、ウパンは必死で看病を続けるも、レイラは帰らぬ人となった。ウパンは号泣、叫び声は岩を砕き、樹木を根こそぎ倒し、河をせきとめ、大地にとどろきわたった。墓地にレイラのなきがらを葬ると、ウパンは生きる気力がなくなった。最愛の妻を失い、生きていく意味などないのだと。

その時、ウパンのうでのうでの中で赤ん坊が笑った。ウパンは家の中の整理をして死ぬ時を待った。するとレイラのベッドの下から一通の手紙、レイラが最期の力をふりしぼって書いた一篇の詩があった。ウパンが後を追わないように祈りの手紙であった。

「私のお墓の前で泣かないで下さい。そこに私はいません。死んでなんかいません。千の風に、千の風になって、あの大きな空を吹きわたっています。」

レイラの書き残した詩を読んでウパンははっと我に返った。レイラは死んではない。ウパンは立ちあがり、あらためて周囲を見まわした。見慣れた風景が全く新しいものに見えてきた。吹きわたる風に向かってウパンはいつの間にか妻の名前を呼んでいた。「レイラ……」

気がつけば風にも光にも山の雪にも河の流れにも、空とぶ鳥にも野に咲く小さな花びらにも、レイラのいびきを感じるではないか。そして何よりベッドで静かな寝息をたてて眠っている娘の寝顔にレイラを感じるではないか。ウパンはさどった。この娘はレイラの生まれかわりだったのか。ウパンはベッドから娘を抱きあげると戸外に出た。外は満天の星、ウパンは夜空を見上げながらうつぶやいた。「明日からこの娘といっしょに生きてゆこう」



あじさい園秋祭り

十一月二十二日(日)

今年の秋祭りは、コロナ感染症予防の為、内々だけの開催となりました。

テイルームを会場とし、密を避ける為、時間を決め各部署ごとの参加としました。たこ焼き、綿菓子、すいもんカフェのスイーツ等、堪能して頂き、ゲームコーナーでは童心に返り、秋の楽しい一時を過ごして下さいました。

12月行事予定

6(日) いとばた会
17(木) 食事会
(忘年会)

お誕生日

おめでとうございます



A 様 (81歳)
B 様 (89歳)

新入居者様のご紹介

C 様 (93歳)
10/15 ご入居
皆様 よろしくお祝い致します



《ご協力をお願い》

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、ご家族様のご面会を制限させて頂いております。
年末・年始の外泊も控えていただいております。
ご理解・ご協力の程、よろしくお祈りいたします。